

令和7年度(2025年度)

カリキュラム編成書

音響制作科

東北電子専門学校

学 科 概 要 書

音響制作科

育成人材像

- ① 舞台スタッフ、コンサートスタッフとして必要な舞台音響、舞台照明の総合的な専門知識を持ったオペレーションや管理ができる。
- ② 音楽や歌唱に限らず、放送、映像、映画、DVD等、多様なメディアに対応できる技術と創作性を身に付けてレコーディングエンジニアとして業務を遂行することができる。
- ③ 多くの音響関連専門機器の操作技能を身に付け、MAエンジニアとして整音作業を円滑に遂行することができる。

身に付ける能力

- ① 舞台美術、舞台照明、舞台音響の基本から応用まで学び、舞台機構調整技能検定の合格に必要な知識と技能を身に付け、PAスタッフとして実務に活用できる。
- ② レコーディングの基本から応用まで学び、Pro Tools技術認定試験合格に必要な知識と技能を身に付け、レコーディングエンジニアとして実務に活用できる。
- ③ 映像音響処理技術者技能認定資格試験およびサウンドレコーディング技術認定試験合格に必要な知識を身に付け、MAスタッフとして実務に活用できる。

教育課程編成方針

- ① 豊かな教養と社会常識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1年次は音響分野において必要な音響、照明、映像、電気およびレコーディングの基礎的知識、PA機器、DAWアプリケーションの基本的操作能力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ③ 1年次は通年で企業と連携した実習科目を配置する。
- ④ 2年次前期は音響分野において必要な放送システムの基礎的知識を身に付けるための専門科目を配置する。
- ⑤ 2年次は音響分野において即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目として、1年次に身に付けた知識と能力を高める演習を通年で配置する。

授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニングとする。
- ② 音響分野における知識修得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習はグループワーク形式で行う。
- ③ 音響業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるため、PA機器、照明機器およびDAWアプリケーションの操作技能を修得するための専門科目は、実習形式で行う。なお、作品制作科目においては年間3～4課題程度の作品を作成し、設置・設定確認を主とする科目においては、主要バリエーションを目視および聴音で確認する。
- ④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した授業は、PA機器の配置および操作のバリエーションを学内ホールに学内のPA機器を用いて疑似再現することで身に付ける。

目標資格

- ・舞台機構調整技能検定3級・2級
- ・サウンドレコーディング技術認定試験
- ・ProTools技術認定試験

目指す職種

- ・コンサートスタッフ(音響・照明) ・TV音声スタッフ ・MAミキサー

企業連携実習

- ・株式会社 東北共立

業界や企業との提携／外部イベント／コンテスト等

- ・とっておきの音楽祭 音響アシスタント参加(校外実習)
- ・定禅寺ストリートジャズフェスティバル音響アシスタント参加(校外実習)
- ・仙台ゴスペル・フェスティバル 音響アシスタント参加(校外実習)
- ・インターンシップ(東北映像製作社協会主催)

科目関連図

音響制作科

科目 区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
一般 科目	就職対策Ⅰ		就職対策Ⅱ					
専門 科目	音響技術							
	映像技術		検定対策					
	照明技術Ⅰ		照明技術Ⅱ					
	PA基礎実習		PA実習					
	レコーディング基礎実習		レコーディング実習					
	DAW基礎実習		DAW実習					
	MA基礎実習		MA実習					
	メディア概論			卒業研究				
	ビジネススキル トレーニング			卒業制作				

音響制作科

1年

科目名	シラバス(就職対策Ⅰ)					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	1年次	履修学期	通年	時間／週	1.5	総授業時間	57	単位	2
担当教員	木須 紀子			実務経験					
目的／概要	一般常識や適性試験対策を中心に学習する。就活時必要となるエントリーシートや履歴書は、自己分析により適職を知ったうえ書き方を学ぶ。								
到達目標	就職活動時の一般常識試験に対応できる能力を身につける。								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	担当者作成のプリント 面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)								
履修上の注意	常に就職への意識を持って授業に取り組むこと								
成績評価の方法	・一般常識実力試験…80% ・課題小テスト…10% ・授業に取り組む姿勢…10% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

※別紙
就職対策Ⅰ(別紙①授業計画)

就 職 対 策 I

< 前 期 >

授業	教科・ジャンル	学習内容	ラインズ・コース
1	数学 オリエンテーション・数の体系1	整数・小数の四則演算	ベーシック
2	数学 数の体系1・数の体系2	()を使った計算、分数の四則演算	ベーシック
3	数学 数の体系2	負の数の四則演算、数の体系、整数の性質	ベーシック
4	数学 単位／組み合わせ・確率	いろいろな単位、単位当たりの大きさ、百分率	ベーシック
5	数学 単位／組み合わせ・確率	平均値・統計・調査	ベーシック
6	数学 量の関係・文字式・関数	2つの量の関係、文字を使った式、比例、一次関数・グラフ	ベーシック
7	数学 量の関係・文字式・関数	方程式・連立方程式	ベーシック
8	数学 累乗・二次方程式	平方根、二次方程式の基礎	ベーシック
9	数学 累乗・二次方程式	式の展開、因数分解、二次方程式の応用	ベーシック
10	数学 図形	図形の基本、面積、体積	ベーシック
11	数学 図形	合同・相似、三平方の定理	ベーシック
12	SPI非言語	SPI計算の基礎、SPI非言語出題分野の基礎、演習問題(割合)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
13	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(未知数の計算、特殊な割合の計算)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
14	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(代金の清算、代金の割合)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
15	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(分割払い、損益算)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
16	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(速さ、場合の数、確率)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
17	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(グラフと領域、集合、推論)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
18	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(表の読取、入出力装置)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
19	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(経路図、資料・長文の読取など)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野

< 後 期 >

授業	教科・ジャンル	学習内容	ラインズ・コース
1	国語 漢字の読み書き	漢字1～5	スタンダード
2	国語 熟語	熟語の構成、熟語、慣用句・反対語・故事成語・ことわざ	スタンダード
3	国語 敬語	敬語の種類、尊敬語、謙譲語、丁寧語	スタンダード
4	SPI言語	2語の対応関係、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
5	SPI言語	語句の用法、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
6	SPI言語	語句の意味、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
7	SPI言語	熟語の意味、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
8	SPI言語	熟語の成り立ち、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
9	SPI言語	文章の並べ替え、長文読解、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
10	SPI言語	三文構成、空欄補充、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
11	SPI言語	空欄補充・文、長文の要約、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
12	社会 政治・経済、国際・社会生活	経済の仕組み、日本国憲法、世界経済、国民経済と福祉、世界政治等	スタンダード
13	理科 生物	植物、動物、消化と吸収、細胞、遺伝	スタンダード
14	理科 気象・地学・天文など	地層、気象、日本の天気、天体、科学技術と人間、自然と人間	スタンダード
15	SPI模擬テスト マークシート	非言語分野	マークシート1
16	SPI模擬テスト マークシート	言語分野	マークシート1
17	SPI模擬テスト WEBテストインテグ	非言語分野・言語分野	WEBテストインテグ1
18	SPI模擬テスト テストセンター	非言語分野・言語分野	テストセンター・固定
19	SPI模擬テスト テストセンター	非言語分野・言語分野	テストセンター・IRT

科目名	メディア概論					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	1年次	履修学期	通年	時間／週	1.5	総授業時間	57	単位	2
担当教員	篠 拓勇希			実務経験					
目的／概要	【目的】 マルチメディア技術の根幹をなすデジタル端末(コンピュータなど)やその周辺機器やインターネットなど、かつデジタルコンテンツ、知的財産権、セキュリティ技術、マルチメディアの応用に関する幅広い知識と技能を修得することを目標とする。 【概要】 マルチメディアの特徴・デジタル端末・コンテンツ制作のためのメディア処理・インターネットと通信・インターネットで提供されるサービス・インターネットビジネス・デジタルとネットワークで進化するライフスタイル・社会に広がるマルチメディア・セキュリティと情報リテラシ。								
到達目標	社会や生活の場に必要なインターネットやマルチメディアに関するコンテンツや技術、システムや機器、コミュニケーション技術に関する知識や能力について修得し、マルチメディア検定ベーシックの合格を目指す。								
目標資格	マルチメディア検定ベーシック								
前提知識	高等学校の程度の知識								
使用教材	入門マルティメディア (CG-ARTS協会)								
履修上の注意	・授業は必要に応じ、板書したり、プリントなどを利用するので、ノートを用意すること ・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をしましょう。								
成績評価の方法	・定期考査…80% ・課題小テスト…10% ・授業に取り組む姿勢…10% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション マルチメディアの特徴
5月	コンテンツ制作のためのメディア処理
6月	マルチメディア機器
7月	インターネット
8月	インターネットで提供されるサービス
9月	インターネットビジネス
10月	デジタルとネットワークの活用で変わるライフスタイル 社会に広がるマルチメディア
11月	セキュリティと情報リテラシ 検定対策
12月	論理演算
1月	著作権
2月	

科目名	ビジネススキルトレーニング					企業連携		授業方法	演習
履修年次	1年次	履修学期	前期	時間／週	3	総授業時間	57	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験	企業でのPMおよび、PlayingManagerの経験を活かし、インフラおよび、アプリケーションの見地からバランスの取れた教育を行う。				
目的／概要	【目的】 情報関連科目を学習するために必要なWord、Excel、PowerPoint等のオフィスソフトの基本操作を修得する。 また、AIリテラシの修得する。 【概要】 ・セキュリティについて正確な知識を身につける。 ・Word、PowerPointについて、基本的な操作を身につける。								
到達目標	・Officeスイートの基本操作を習得し、操作できる。 ・Word、Excel、PowerPointによる文書作成や表作成、図形や画像を利用した文書を作成できる。 ・AIに関する基本的な考え方や知識、活用事例などのついて理解する								
目標資格	特になし								
前提知識	・高等学校の情報科目履修程度の知識 ・マウスの使用、簡単な文字入力								
使用教材	・30日でマスター Office2021(実教出版) ・Udemy「はじめてのAI」								
履修上の注意	・e-Learningは「見ただけ」「読んだだけ」では効果なし！ 大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をが必要 ・テキストの持参								
成績評価の方法	・e-Learningの終了テスト ・テキスト課題の提出物 ・授業への取り組む姿勢などで総合的に評価する								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション 以下の内容を学生個人のペースで習得する。		
5月	Word 文字の入力、訂正 文書の作成 表を使用した文書の作成		
6月	画像や図形を使用した文書の作成 Excel データ入力の基礎 基本的なワークシート編集 関数を使った計算式 小数点とセルの参照／罫線 グラフ 条件判定、検索関数の利用		
7月	PowerPoint プレゼンテーションの作成 文字の修飾と図形の活用 アニメーション効果		
8月			
9月			

科目名	映像技術					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	1年次	履修学期	通年	時間／週	3	総授業時間	114	単位	4
担当教員	八巻 吉市			実務経験	民間放送局で放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に勤務				
目的／概要	【目的】放送や番組制作のための設備や使用機器を理解するために必要な信号の成り立ち、信号の意味や役割などを理解し、それぞれの機器の基本動作やポストプロダクション業務のための知識を修得する。同時にポストプロダクション業務に必要な検定資格「映像音響処理技術者」資格認定試験の合格を目指す。 【概要】 ・カラーテレビジョンの標準方式とNTSC方式 ・ テレビジョン信号の伝送と放送・ ポストプロダクション業務(テレビジョン信号の種類と方式)・ ポストプロダクション業務(信号の測定とVTR)・ ポストプロダクション業務(テレシネと編集)・ 検定対策								
到達目標	・ 映像音響処理技術者認定試験が合格できる。								
目標資格	映像音響処理技術者認定試験								
前提知識	電気・電子に関する物理の知識、興味があれば望ましい								
使用教材	・担当者作成のプリント ・テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) ・ポストプロダクション技術マニュアル・映像音響処理技術者資格認定試験問題集 (日本ポストプロダクション協会)								
履修上の注意	映像制作および放送における、信号や機器の理解は必須であるのでしっかり習得すること。								
成績評価の方法	・定期考査…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション
5月	映像・音声のみ基礎とポストプロダクション
6月	映像の特徴
7月	放送
8月	
9月	映像信号の成り立ち
10月	映像信号の記録システム
11月	
12月	様々な用途のデジタル映像
1月	映像の編集
2月	

科目名	音響技術					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	1年次	履修学期	通年	時間／週	前期:6.0 後期:4.5	総授業時間	199.5	単位	7
担当教員	山崎 徹 酒井 淳			実務経験					
目的／概要	【目的】音の理論から音響機器の構造や動作、音響機器の取り扱いなどを講義を通して学び、映像音響処理技術者認定試験やサウンドレコーディング技術認定試験の合格をめざす。 【概要】 音の理論 ・音響機器の名称、役割、構造、動作原理など、音を具体的に表現するために必要な機器動作を理解する。								
到達目標	・音響理論である音の三要素や聴覚効果など音響の基本的な事柄が説明できること。 ・マイクの種類や特性、ミキサーなど音響機器の構造や動作が説明できること。 ・仕事別音響設備が理解できること。 ・各規格を理解し対応ができること。 ・舞台用語が理解できること。								
目標資格	・舞台機構調整技能士3級 ・サウンドレコーディング技術認定試験 ・映像音響処理技術者認定試験								
前提知識	・直流信号、交流信号などの電氣的知識が多少必要 ・対数などの数学的知識が多少必要								
使用教材	サウンドレコーディング技術概論(一般社団法人 日本音楽スタジオ協会)								
履修上の注意	・授業は板書するので、ノートを用意すること。 ・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をしましょう。								
成績評価の方法	・定期考査…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション 音響の基礎／音響物理の基礎□
5月	
6月	電気音響の基礎□
7月	音響機器
8月	録音技術
9月	
10月	次世代音響技術
11月	
12月	音楽理論と楽器について
1月	音楽著作権
2月	音楽制作の歴史とスタッフの役割

科目名	照明技術 I					企業連携		授業方法	講義・実習
履修年次	1年次	履修学期	通年	時間／週	3	総授業時間	114	単位	4
担当教員	原田 建			実務経験	(株)共立(テレビ朝日/生田スタジオ)でテレビ照明に従事、(株)東北共立では、宮城テレビにて派遣業務(テレビ照明)、東北共立本社ではイベント・舞台照明に従事。				
目的／概要	【目的】対談番組や歌番組などスタジオ制作実習を通して、基本照明から番組形態による照明、更に演出を考えた照明など、照明技術から照明演出までトータルのに修得する。 【概要】 ・人物照明とディスプレイ照明 ・番組形態舞台形態の違いによる照明の理解 ・番組演出・舞台演出と照明 ・撮影取材の照明 ・舞台機構と安全管理								
到達目標	一般(環境)照明と演劇照明(舞台、テレビ、映画)の違いを理解すること、合わせて演劇照明技術、電気・電子・照明各工学系の基礎理論を理解して演劇照明を実践する為の基礎知識を身につけ、番組制作実習において、具体的に実践できること。								
目標資格	舞台機構調整技能士3級、2級(目標)								
前提知識	高校までに学んだ、学習内容と一般常識								
使用教材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)								
履修上の注意	教科書の内容や板書したり、したものだけでなく講義中に話した内容にも充分に注意し、ノートやメモなどを取る。事前に次の講義範囲を提示するので、教科書や参考書に目を通し予習しておくこと。								
成績評価の方法	定期考査…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション
5月	
6月	一般照明と舞台、テレビ、映画の照明の違い
7月	
8月	舞台、テレビの照明設備とその歴史
9月	光と色、視覚について、照明工学、明視論
10月	
11月	光源、調光装置と照明器具
12月	舞台、テレビの照明技術の基礎理論
1月	
2月	照明デザインと仕込み図の制作、舞台機構と安全管理

科目名	レコーディング基礎実習					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	1年次	履修学期	通年	時間／週	3	総授業時間	114	単位	4
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的／概要	【目的】 ・マイクの取り扱い、音響機器の簡単な接続法や録音方法を修得し以降の実習に備える。DAWを使用し音楽における楽器間のバランスがとれステレオ空間に音像を定位し、音色加工と効果付加を行い作品を仕上げられるようにする。 【概要】 ・マイクアレンジ ・機器の接続と操作 ・レベルの設定・音量の設定 ・DAWと音響調整卓の接続 ・バランスと定位・音色加工効果の種類と機器の接続								
到達目標	・機器同士を録音できる状態に正しく接続出来る。 ・適正な音量でスピーカから音が出せる。 ・正しいレベルで録音できるよう音響調整卓の操作等が出来る。 ・各種音響設備を理解しそれらの接続法を習得する。 ・各楽器の音を理解し、各エフェクト調整ができる。 ・楽曲ごとのレベルとバランスがとれる。								
目標資格	サウンドレコーディング技術認定試験								
前提知識	音響技術およびPA基礎実習で学んだ知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	・繊細な機器、重量の重い機器等いろいろな機器類があるので取り扱いや怪我等に十分注意すること								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション		
5月	前期 電源の投入 マイクスタンドの取り扱い マイクセッティング 機器の接続		
6月	レベルの設定 音量の設定 機器の操作 ミキシング		
7月			
8月			
9月			
10月	後期 DAWと音響調整卓の接続 バランスと定位 音色加工 効果の種類と機器の接続および設定		
11月			
12月			
1月			
2月			

科目名	PA基礎実習					企業連携	対象科目	授業方法	実習・演習
履修年次	1年次	履修学期	通年	時間／週	3	総授業時間	114	単位	4
担当教員	佐々木 克則			実務経験	イベント・コンサートの企画や運営及び文化施設の運営を行う企業で、音響拡声、録音、管理等の仕事に長年携わってきた経験を活かし実践的な授業を行う。				
目的／概要	【目的】連携企業講師によるPAシステムのセットアップとオペレート及び出演者とのコミュニケーションを学修する。 【概要】 ①セットアップ(コードの巻き方、スピーカの設置、機器の接続と操作)を学修する。 ②PAミキサーの基本(電源の投入、レベルの設定、音量の設定)を学修する。 ③キュー出し(指示の出し方、タイミング)など現場経験豊かな講師からノウハウを学修する。								
到達目標	①マイクケーブル等の特殊な巻き方が短時間で見栄えよくできる。 ②機器(マイク、ミキサー、アンプ、スピーカ)確実に接続できる。 ③ひずみやハウリングのない適正な音量でスピーカから音が出せる。 ④適正レベルでミキシングするための音響調整卓の操作ができる。 ⑤ミキシング操作がスムーズにできるようなキュー出しができる。								
目標資格	舞台機構調整技能士3級、2級(目標)								
前提知識	特になし								
使用教材	実際の音響機材 音響映像設備マニュアル(リットーミュージック)								
履修上の注意	繊細な機器、重量の重い機器等いろいろな機器類があるので取り扱いや怪我等に十分注意すること。 そのために作業時の服装についても考慮すること。								
成績評価の方法	・実技、授業への取り組む姿勢 ・課題レポート ・実技評価 などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション
5月	1年を通して以下を学ぶ。
6月	コードの巻き方 スピーカの設置法
7月	音響卓の設置と取扱 電源の投入 レベルの設定
8月	アサインの設定 イコライザーの使用法
9月	マイクロフォンの使い方 再生機器の使い方
10月	実際のホールを訪問しホール見学を行う。
11月	ホール見学
12月	
1月	
2月	

科目名	DAW基礎実習					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間／週	3	総授業時間	114	単位	4
担当教員	小野寺 明敏			実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト				
目的／概要	【目的】音楽の基礎的理論を理解し、コンピュータを核としたDAWのソフトウェア（ProTools）で音の加工や編集を行い音を仕上げる技術を学ぶ。また、ProTools技術認定試験の合格を目指す。 【概要】 ・ツール操作（ProTools技術認定試験対策も含む）・音源の取り込み・編集・効果・録音・作品制作（マスタリングも含む）								
到達目標	・ProTools技術認定試験（9月実施）に合格できる。 ・それぞれのツールを理解し、取り込んだ音源を編集して作品を仕上げることができる。 ・映像と音の理解を深める。								
目標資格	・ProTools技術認定試験 ・サウンドレコーディング技術認定試験								
前提知識	特になし								
使用教材	ProTools技術認定試験問題集／技術資料集（JAPRS）								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	・課題作品評価（定期考査）…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション
5月	1年を通して以下を学ぶ。
6月	DAWの基礎、概念。PC／ProTools操作基礎
7月	DAWの基礎、概念。ProToolsデモ音源を使用した、ProTools操作基礎
8月	ProTools操作基礎。教員が準備した素材を使用した、プラグインの理解
9月	ProTools技能認定試験対策
10月	グループ演習(ProToolsを使用した課題制作)
11月	ProToolsを使用したミックス、マスタリング。
12月	生音バンド音源を使用した、ミックス総合実習
1月	生音バンド音源を使用した、ミックス～マスタリングまでの実習
2月	長編映像素材を使用した、楽曲・効果音の編集～整音～完成

科目名	MA基礎実習					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間／週	3	総授業時間	57	単位	2
担当教員	小野寺 明敏			実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト				
目的／概要	【目的】ポストプロダクション業務を理解しその中のMA作業について学習する。 【概要】ProtoolsでのMA作業を修得する。								
到達目標	・ProTools技術認定試験合格できる。 ・シンプルな映像編集完了映像に音処理ができる。 ・映像に音を付けるとは、何かを理解できる。								
目標資格	・ProTools技術認定試験 ・映像音響処理技術者認定試験								
前提知識	特になし								
使用教材	ProTools技術認定試験問題集／技術資料集(JAPRS)								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

10月	科目オリエンテーション
11月	以下の内容を学ぶ
12月	MA概論 (映像に音を付けるとは何かを演出と心理と共に学ぶ)
1月	MA作業 (整音、音楽の仕込み、効果音の仕込み、アフレコ、ナレーションの仕込み、ミックスダウン)
2月	

科目名	ビジネスワークショップ I					企業連携		授業方法	演習
履修年次	1年次	履修学期	後期	時間／週	1.5	総授業時間	28.5	単位	1
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的／概要	【目的】 時代に即した働き方を鑑みフリーランスとして起業する際に必要なHow toをワークショップにて体験する。(2年生と合同) 【概要】 2年生との合同グループにおいて新規の会社を起業するために必要なプロセスを疑似体験する。 ・ビジネスモデル・戦略モデル・オペレーションモデル・収益モデルを学びグループ単位に疑似会社を起こす。								
到達目標	以下のモデルを理解し、説明できる。 ・ビジネスモデル・戦略モデル・オペレーションモデル・収益モデル								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	この一冊で全部わかるビジネスモデル―基本・成功パターン・作り方が一気に学べる								
履修上の注意	学年を跨いでの演習となるので積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・課題評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

10月	科目オリエンテーション
11月	1年を通して以下の内容を学ぶ。
12月	テキストを基に代表的なモデルを理解する。 ・ビジネスモデル・戦略モデル・オペレーションモデル・収益モデル
1月	学年混合で3～4人を1グループとした班編成を行い、グループリーダーを中心に起業するまでに必要な事項を洗い出し、5W1H形式でどのように解決するかを起業プランとして纏める。
2月	作成した起業プランを他のグループにプレゼンする。

音響制作科

2年

科目名	シラバス(就職対策Ⅱ)					企業連携		授業方法	講義・演習
履修年次	2年次	履修学期	前期	時間／週	1.5	総授業時間	57	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的／概要	【目的】 就職試験対策と職場の人間関係に必要な「一般常識」を学び、就職活動支援を目的とする。 【概要】 ・エントリーシート、履歴書記入演習 ・ 作文、論文演習								
到達目標	・志望業種別或いは志望企業向けのエントリーシート及び履歴書作成の演習を行い就職への意識向上を図り、受験企業に提出する履歴書が書ける。 ・作文と論文を書く演習を通して、実際の試験でのテーマの絞込み、時間配分などを身に付け、具体的な論作文が書ける。 ・入退出から応対、言葉使いなど、演習を通じて面接に必要な知識を身につけ、実際の面接で「自分を自然に表現」出来るように行動できる。 ・面談を通して、就職の意義、情報提供、活動状況を共有し、内定を得る。								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	担当者作成のプリント 面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)								
履修上の注意	常に就職への意識を持って授業に取り組むこと								
成績評価の方法	・一般常識実力試験…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション
5月	就職活動として以下の演習を行う。
6月	エントリーシート、履歴書記入演習
7月	面接試験対策(入退出から応対、言葉使い、質疑応答)演習 作文、論文演習 面談リハーサル
8月	
9月	

科目名	照明技術Ⅱ					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	2年次	履修学期	通年	時間／週	3	総授業時間	144	単位	4
担当教員	原田 建			実務経験	(株)共立(テレビ朝日/生田スタジオ)でテレビ照明に従事、(株)東北共立では、宮城テレビにて派遣業務(テレビ照明)、東北共立本社ではイベント、舞台照明に従事。				
目的／概要	【目的】 照明プラン図を理解し、器具つり込み、卓の操作、シュート(配光)の舞台実習を通し、照明効果を学び、イベント照明、音楽照明、芝居の照明などのプラン図を作成し運用することを修得する。 【概要】 ①舞台機構と照明機構と舞台用語の理解 ②各照明器具の取り扱い方の理解 ③イベント照明 ④音楽照明 ⑤芝居(心理描写を表現する)照明								
到達目標	①舞台機構、照明機構、舞台用語の修得 ②舞台演目の違いによる照明家の考え方を学び、器具の選定、仕込み作業などを実習を通して修得 ③光と影の効果を理解した上で、色光の効果を修得 ④制作演出との打ち合わせを行い、照明プラン図の作成から実際の運用までの一貫したライティングを行うことを修得								
目標資格	舞台機構調整技能士3級、2級(目標)								
前提知識	1年次の基本的知識を理解していること								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション
5月	1年を通して以下の内容を学ぶ。
6月	舞台機構と照明機構 器具の種類と運用方法
7月	光の方向・角度別の照明効果 色光の効果と作り方 プラン図を理解する
8月	仕込み作業(器具の吊り込み、設置) 卓の操作とシュート(配光)
9月	イベント照明の仕込み図作成と運用 音楽照明の仕込み図作成と運用
10月	芝居(心理描写を表現する)照明の仕込み図作成と運用 総合演出(イベント・音楽・芝居)に対応した照明の仕込み図作成と運用
11月	
12月	
1月	
2月	

科目名	レコーディング実習					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	2年次	履修学期	通年	時間／週	4.5	総授業時間	171	単位	6
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的／概要	【目的】 1. マイクアレンジによる音色の違い、各種音源収録法マルチトラックレコーディングについて学習する。 2. ラジオ番組制作実習を通して、演出、進行、技術のそれぞれの役割と公開に関わるコンプライアンスを学修する。 【概要】 1. 各音源に対してのマイキングと録音レベルの設定、音色加工と効果付加を修得する。 2. ラジオ番組の企画、タイムキープ、表現力の習得を理解し、レコーディングエンジニアとして番組制作を行う。								
到達目標	1. 各音源に対してのマイキングと録音レベルの設定、ステレオレコーダ及びDAWへの録音ができる。 2. 制作内容を理解し、考え、行動し、作品の中に結果が出ていること、完成作品にコンプライアンスに抵触するような表現がないこと。								
目標資格	サウンドレコーディング技術認定試験								
前提知識	1年次に学修した音響技術、レコーディング基礎実習の知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション
5月	1年を通して以下の内容を学ぶ。
6月	マイクアレンジ、マルチトラックレコーディング、トラックダウン、ミキシング実習
7月	番組制作を通じて下記項目を理解する。
8月	①ラジオ、テレビ番組の企画
9月	②商品たるべきラジオのエンターテインメント性
10月	③音楽のジャンルと録音方法
11月	④タイムキープ
12月	⑤表現力の習得
1月	各種番組の收音と処理(選曲、編集、効果音)実習
2月	

科目名	PA実習					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	2年次	履修学期	通年	時間／週	4.5	総授業時間	171	単位	6
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的／概要	【目的】 ①実際の音響システム・セットアップ・音響機器の習得をしPAペレーション等を習得する。 ②舞台演出・音響・照明の関わりを理解し必要な知識・技術を実習と通じて学修する。 【概要】 ①音響システムプランに基づいた機材準備、セット、チェック、機器操作を習得する。また、舞台機構調整技能検定実技対策実習を行う。 ②各内容に応じて音響プランニングをし機材準備から音出しまでの。各スタッフと連携イベントを制作する。								
到達目標	①音響プラン・仕込み図作成しそれに従いセット・チェック・機器操作技術の修得。 舞台機構調整技能検定実技試験合格すること。 ②制作に於いてはスタッフとして役割を果たし、作品クオリティー向上の為、考えて行動出来る様になる事。								
目標資格	舞台機構調整技能士3級、2級(目標)								
前提知識	1年次に学修した音響技術、PA基礎実習の知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	機器類は重量も重く、危険も伴うので服装・運搬・取り扱いには十分注意すること。								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション
5月	技能検定の試験日までは舞台機構調整技能検定対策(実技・要素)を行う。
6月	技能検定の試験日以降は、1年を通して以下の内容を学ぶ。 1年次の実習復習及びテレビ、ラジオ収録機器の操作技術修得 PAセッティング・機器説明・チェック方法・調整方法
7月	音響測定プラン図を理解する
8月	モニターシステム(フォールドバック)説明・実習 イベント音響の仕込み図作成と運用
9月	創作活動
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	

科目名	DAW実習					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	2年次	履修学期	通年	時間／週	5	総授業時間	114	単位	4
担当教員	小野寺 明敏			実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト				
目的／概要	【目的】 DAWを活用した制作過程のプリ/ポスト・プロダクション、オーサリング、MA、マスタリングを学修する 【概要】 ・録音編集作業を終えたファイルや波形の編集やミックスの修正方法を学修する。 ・「クロス・フェード」を上手く掛ける方法を学修する。 ・DVD、CDの原盤を作成のために画像・音声を編集するマスタリングを学修する。								
到達目標	・DAWを活用した制作過程で創作した作品（音声作品）を完成させる。 ・完成した作品を視聴して、感想等の意見交換を行い、レポートにまとめる。								
目標資格	・ProTools技術認定試験 ・サウンドレコーディング技術認定試験								
前提知識	1年次に学修したDAW基礎実習の知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	・提出課題…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション
5月	1年を通して以下の内容を学ぶ。
6月	レコーディング、トラック制作、アレンジ実習
7月	音声波形の編集やミックス、修正実習
8月	バウンス実習
9月	MA処理実習
10月	マスタリング実習
11月	視聴・意見交換
12月	
1月	
2月	

科目名	MA実習					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	2年次	履修学期	通年	時間／週	1.5	総授業時間	57	単位	2
担当教員	小野寺 明敏			実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト				
目的／概要	【目的】 DAWを活用した制作過程のプリ/ポスト・プロダクション、オーサリング、MA、マスタリングを学修する 【概要】 ・録音編集作業を終えたファイルや波形の編集やミックスの修正方法を学修する。 ・「クロス・フェード」を上手く掛ける方法を学修する。 ・DVD、CDの原盤を作成のために画像・音声を編集するマスタリングを学修する。								
到達目標	・フルデジタルシステムでの收音と編集ができる。 ・映像音響処理技術者認定試験合格できる。 ・ロケーション番組制作における、オンライン編集後のMA処理ができる。								
目標資格	・ProTools技術認定試験 ・サウンドレコーディング技術認定試験								
前提知識	1年次に学修したDAW基礎実習の知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	・提出課題…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション
5月	1年を通して以下の内容を学ぶ。
6月	ガンマイクによる取材 ワイヤレスマイクによる取材 フルデジタルシステムでの收音・編集
7月	5. 1サラウンドの收音と記録 ロケーション番組制作のMA作業
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	

科目名	卒業研究					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	2年次	履修学期	後期	時間／週	5	総授業時間	57	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的／概要	【目的】 ・授業で学習した内容を自ら深く掘り下げ研究テーマを決めて、自学することを学修する。 ・研究結果を発表し、プレゼンテーションスキルを身につける。 【概要】 研究テーマを決めて調査研究を行い、それをレポートのまとめ結果発表する。また、グループ活動を通して個々の知識のレベルアップを図る。								
到達目標	・研究テーマについて、収集した情報を整理できる。 ・研究テーマについて、考察ができ、レポートにまとめることができる。 ・研究内容をプレゼンテーションができる。								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	レポート論文作成法(慶応義塾大学出版局)								
履修上の注意	・まとめ用のノートを用意すること。								
成績評価の方法	・課題評価…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

10月	科目オリエンテーション
11月	以下の内容を学ぶ。
12月	レポート・論文作成法
1月	研究テーマ決め、情報収集、研究
2月	プレゼンテーション

科目名	卒業制作					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	2年次	履修学期	後期	時間／週	10.5	総授業時間	199.5	単位	7
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的／概要	【目的】 2年間の集大成として学んだ知識、技術を活かし「もの創り」の過程を自ら考え結果を出すことのできるスキルを身につける。 【概要】 1. 作品制作(グループ制作)を行う。 具体的作品:ラジオ番組・音響作品・音楽作品・ステージイベント作品など 2. 舞台機構調整技能士3級合格者対象に2級合格のための対策授業を行う。								
到達目標	・作品の企画、構成内容を理解しプランニングすることができる。 ・作品の企画内容を舞台、照明、音響で具体化することができる。 ・スタッフのポジションと役割を理解し、制作をスムーズに進行できる。 ・舞台機構調整技能士2級合格								
目標資格	舞台機構調整技能検定(2級)								
前提知識	2年間学んだ専門知識を理解できている 舞台機構調整技能士3級合格								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	・まとめ用のノートを用意すること。								
成績評価の方法	・課題評価…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

10月	科目オリエンテーション
11月	以下の内容を学ぶ。
12月	作品制作(音響作品・音楽作品・イベント、ステージ)
1月	舞台機構調整技能士2級対策授業
2月	

科目名	検定対策					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	2年次	履修学期	前期	時間／週	5	総授業時間	57	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的／概要	【目的】 舞台機構調整技能士検定3級、サウンドレコーディング技術認定試験、映像音響処理技術者認定等の合格率向上を目的とする。 【概要】 過去問題および過去問題集(舞台機構調整技能士は筆記のみ)を使用して検定対策を行う。								
到達目標	以下の検定に合格する。 ・舞台機構調整技能士(3級) ・サウンドレコーディングぎじゅつ認定試験 ・映像音響処理技術者資格認定試験								
目標資格	・舞台機構調整技能士(3級) ・サウンドレコーディング技術認定試験 ・映像音響処理技術者資格認定試験								
前提知識	1年次に学修した音響技術、PA基礎実習、レコーディング基礎実習の知識が必須								
使用教材	舞台機構調整技能検定3級試験問題集(兼六館出版) サウンドレコーディング技術概論(一般社団法人 日本音楽スタジオ協会) 映像音響処理技術者資格認定試験問題集(一般社団法人 日本ポストプロダクション協会)								
履修上の注意	演習中心となるので検定日から逆算し自ら計画を立てて学修すること、また、疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・課題評価(定期考査)…40% ・検定可否結果…40% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

4月	科目オリエンテーション
5月	検定日から逆算し、以下の過去問題、過去問題集を解き進め、苦手分野を克服する。
6月	映像音響処理技術者資格認定試験 受験
7月	サウンドレコーディング技術認定試験 受験 / 舞台機構調整技能士 筆記試験 受検
8月	夏季休業後は、Pro Tools技術認定試験のランクアップを目指す。
9月	Pro Tools技術認定試験 受験

科目名	ビジネスワークショップⅡ					企業連携		授業方法	実習・演習
履修年次	2年次	履修学期	後期	時間／週	1.5	総授業時間	28.5	単位	1
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的／概要	【目的】 時代に即した働き方を鑑みフリーランスとして起業する際に必要なHow toをワークショップにて体験する。(2年生と合同) 【概要】 1年生との合同グループにおいて新規の会社を起業するために必要なプロセスを疑似体験する。 ・ビジネスモデル・戦略モデル・オペレーションモデル・収益モデルを学びグループ単位に疑似会社を起こす。								
到達目標	以下のモデルを理解し、説明できる。 ・ビジネスモデル・戦略モデル・オペレーションモデル・収益モデル								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	この一冊で全部わかるビジネスモデル―基本・成功パターン・作り方が一気に学べる								
履修上の注意	学年を跨いでの演習となるので積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・課題評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

授業計画・授業内容

10月	科目オリエンテーション
11月	1年を通して以下の内容を学ぶ。
12月	テキストを基に代表的なモデルを理解する。 ・ビジネスモデル・戦略モデル・オペレーションモデル・収益モデル
1月	学年混合で3～4人を1グループとした班編成を行い、グループリーダーを中心に起業するまでに必要な事項を洗い出し、5W1H形式でどのように解決するかを起業プランとして纏める。
2月	作成した起業プランを他のグループに向けてプレゼンする。